



3月4日から受け付け開始

定額給付金支給事務 全国にさきがけてスタート

3月4日(水)の国会の再可決にさきがけて、2月26日(木)に定額給付金の申請書類を送付。3月4日には定額給付金の受付を開始するなど、長崎県でもっとも早い取り組みを行いました。今回の取り組みは、全国版のテレビニュースで取り上げられたほか、2月27日(金)の長崎新聞の一面で取り上げられるなど、各報道機関でもその対応に注目が集まりました。窓口での受け付けには、担当部課だけでなく、市の職員の大半を動員。一刻も早く市民に届けようと、文字どおり「一丸」となって取り組みました。



“青い”封筒が目印!!
今回市が送付した書類。違う封筒で通知された場合は、詐欺の可能性にあります。ご連絡ください。

重要 定額給付金の申請はお済みですか?
申請の手続きがお済みでない人は、速やかに手続きをお願いします。(申請期限は9月4日(金)まで)

通帳忘れ多発!!
申請は免許証(保険証)と通帳が必要です。

給付の内容 ※基準日:平成21年2月1日
 ●65歳以上の人…20,000円 ※詳細は、個別にお届けしている通知書などでご確認ください。
 ●18歳以下の人…20,000円
 ●そのほかの人…12,000円

定額給付金詐欺にご注意!!
●定額給付金の振込口座など、定額給付金を送金するために必要な情報を電話でおたずねしたり、ATMなどの操作をお願いすることはありません。

市内で積極的に利用して商工業の活性化
市内で使おう 定額給付金!

プレミアムつき 南島原市ひまわり商品券

地域経済対策として実施される定額給付金の支給に併せて南島原市商工会が発行する商品券。10%のプレミアムがついており、定額給付金を積極的に使ってもらったり、市内で積極的に利用してもらうことで、商工業の活性化を図ることを目的に発行されます。

●第一次販売期間 3月26日(木)~4月27日(月)
※購入引換券が必要です。
●購入価格 10,000円(額面11,000円)
●購入方法 購入引換券を商工会各支所に持参のうえ購入ください。

松島市長コメント
2月26日、定額給付金と子育て応援特別手当の申請書、およそ1万9千通を市民の皆さんに発送しました。一刻も早く市民の皆さんに定額給付金をお届けしたいと取り組んだ結果、長崎県で一番早い取り組みとして評価をいただきました。ぜひ市内で使いたいただき、南島原市、ひいては日本の景気回復にご協力ください。

また、申請書に「南島原市ひまわり商品券」の購入引き換え券を同封しました。まずは、給付金の一部で商品券をお買い求めいただき、地元でよりお得な買い物をしていただければ幸いです。

まちの話題

Minami Shimabara City My Town Topics



勇壮な太鼓演奏が
お客さまをおもてなし

「新酒の香りに誘われて」 「ありえ蔵めぐり」

2月21日(土)・22日(日)の2日間、「ありえ蔵めぐり」(主催ありえ蔵のまち保存会)が行われました。土曜日は春の到来を思わせるような好天に恵まれました。一転、日曜日はいくくの雨となりましたが両日とも春の新酒などを待ち望む多くの人出でにぎわいました。各会場である五つの蔵は、それぞれに趣向を凝らし、雛飾りや西方小天鼓の太鼓演奏、BMXの自転車ショー、スタンプラリー、新酒の試飲、味噌すくいなどで来場者をもてなしました。

「同日にセミナリオ版画展や原城マラソンが行われたから、そこらのお客さんも来ていただいたのでは?」と関係者も、いつもより3割ほど多い今回のにぎわいに、喜びと戸惑いを隠せないようでした。



各蔵で雛飾りを展示



清酒「南笑」の販売(吉田屋酒造)

あなただけのお酒をつくらう!! 酒米づくりから酒しぼりまでの軌跡

「南島原市のまちづくりグループ「南笑会」が、このほど「あなただけのお酒をつくらう!!」と題して酒搾り体験を行いました。これは、同会が、市内外の地域交流を目的に、酒米づくりから酒搾りの体験メニューを企画し、参加を呼びかけたもので、県内各地から23人が参加。

昨年6月の田植え(ヒノヒカリ)、10月の稲刈り、2月の酒仕込み、魔除け杉玉づくり、酒搾りと、さまざまな体験と交流を深めながら自分たちの日本酒を作りあげました。作られたお酒の一部は、手製のラベルを張り、実際に蔵めぐりでも販売。「あっさりした辛口。飲みやすい」と売り切



一列に並んで田植え



稲の刈り取りも楽しく行いました



魔除け杉玉づくり体験



酒の仕込み体験

れるほど。参加者からは、「米づくりなどを通して自分が刈った米は、格別おいしかった。けど同じ米で造ったお酒は、おいしいを通り越して「感動」ですよ」との声も。「さて、今年は何んしよう(南笑)かな」と笑う会員の皆さんの笑顔は、本当にすてきでした。

※日本酒の製造、販売は、メンバーの造り酒屋さんの協力で実現しています。勝手に酒の製造、販売をすることは法律で禁じられています。

「南笑会」とは
2006年3月、8町が合併し南島原市が誕生しましたが、各町でまちづくりのリーダーとして活動していた20人(うち女性1人)が市の呼びかけで集まり、他市町村のまちづくりの取り組みやツーリズムなどの勉強会を行ってきました。

「南笑会」(酒井洋一会長)の名前の由来は、「何ばしゅうかい」(何をしようか)をもじり、南島原市の「南」、「笑」いながら楽しく生きようから。

その名のとおり、会員が思いついた「楽しいこと」を、毎年行っています。